



# CSR Report 2010

Corporate Social Responsibility Report

鴻池組CSR報告書



〒530-8517 大阪府大阪市北区梅田3-4-5 毎日インテシオ  
TEL.06-6343-3500  
<http://www.konoike.co.jp/>

未来が変わる。日本が変える。  
チャレンジ  
**25**

鴻池組はチャレンジ25キャンペーンに参加しています。

本レポートの環境配慮について  
用紙は、適切に管理された森林から出荷された材を含む森林認証紙を使用し、  
インクは、VOC（揮発性有機化合物）の発生を低減する大豆油インクを使用、  
有害廃液を排出しない水なし印刷方式を採用しています。



# 鴻池組のCSR

〈鴻池組のCSRの柱〉イノベーションの創造

**創造 1** 技術に裏付けされた  
高品質の創造 ..... 社会の安心・安全への貢献  
顧客満足度向上

**創造 2** 人と自然が調和した  
ゆたかな環境の創造 ..... 環境負荷低減  
環境の保全・修復

**創造 3** 夢と誇りを持てる  
会社の創造 ..... 「社会的価値」の向上  
「働きがい」の創出

鴻池組に関わる  
すべての  
人びとからの  
信頼の獲得

## Contents

鴻池組のCSR／編集方針	1
トップインタビュー	3
優良な社会資本の整備のために	5
クローズアップ 日和山観光 施設工事	7
お客様の満足のために	9
環境負荷低減のために	11
環境の保全・修復のために	15
社会的価値向上のために	17
「働きがい」の創出のために	21
仕事の「質」を高めるために	23
信頼に応える体制づくり	25
企業の持続性を高めるために	26
情報マネジメント	27
安全マネジメント	28
皆様の声にお応えします	29
会社概要	30

常に社会から  
必要とされ、  
社会に貢献できる  
鴻池組

### 編集方針

第4号となる本報告書の発刊にあたって構成を大幅に見直し、鴻池組がCSRの柱「イノベーションの創造」として掲げる3つの「創造」に沿った記事構成としました。

また、前号に引き続き、鴻池組が、社会の信頼に応えるためには「こう変わるべき」と信じて取り組んだ活動の紹介を、報告書としての網羅性よりも重視し、その活動をいきいきと伝えるために、関係者の声をできるだけ多くとりあげるよう心がけました。

幅広くさまざまなお立場の方に、鴻池組が社会とどのような関わりを結ぼうとしているのかをご覧くださいませ。

### 対象範囲

対象期間：2009年度（2008年10月～2009年9月）

ただし、当該期間以前の取り組みや以降の活動報告も一部掲載しています。

対象組織：株式会社鴻池組単体であり、関係会社は含んでいません。

### 参考にしたガイドライン

GRI (Global Reporting Initiative)  
「サステナビリティ レポートニング ガイドライン 2006」  
環境省  
「環境報告ガイドライン 2007年版」

### 発行時期

今回：2010年7月  
次回：2011年3月発行予定

### ホームページのご案内

鴻池組は適切な情報開示のためにホームページを開設し、事業活動や保有技術などに関する、より詳細な情報を提供しています。また、本報告書ならびにCSR活動そのものに関するご意見につきましても、ホームページからお寄せいただくことができます。

<http://www.konoike.co.jp/>





# 最高の現場力をもって お客様の笑顔を最大に!

建設業を取り巻く社会環境が大きく変化していく中で、鴻池組がこれからめざす姿についてご紹介します。

代表取締役社長

高田 守弘

## 社会全体の変革期に求められる姿勢

2010年度は現在実行中の3ヵ年中期経営計画の最終年度にあたり、体質強化を図る「JUMP」の1年であると位置づけ、「収益力1%UPへのチャレンジ」をテーマに掲げました。2008年11月に私が社長に就任して以来、受注額中心から収益重視へのシフト、さらに販管費を徹底的に見直すなどの積み重ねで、全社員が意識改革に取り組んできた結果、計画の達成に向け順調に推移しています。現在、社会は、次々と物を消費していくフロー型から、大切に使い続けるストック型へと大きく舵を切っていますが、この変化は今後も続いていくでしょう。建設業を取り巻く状況も刻々と変わっており、技術的な欲求に基づく技術開発ではなく、お客様のニーズにきめ細かく応えられる技術が重要になっています。

また、企業としての体力を高めるため、収益力UPへ向けて蓄積してきた具体的手法を、従業員や部門に固有のノウハウとしてではなく、会社全体の力としていつでも引き出せる状態にすることが必要だと考えています。

### 社 是

#### 【誠実】

時代の推移、社会の変化にかかわらず我々の行動の原点であり、人間関係の根幹である。

#### 【懇切】

品質保証と顧客満足は「もの創り」の絶対条件である。

プロ意識を持ち、きめ細かい配慮とシステマティックな対応が求められる。

#### 【敏速】

企業にとって「速さは力」である。事業の企画・立案・計画・実行を素早くこなさなければならない。

### 経営理念

- ・環境と共生し「もの創り」を通して社会に貢献する。
- ・「品質保証」と「顧客満足」を提供し、さらなる相互信頼のもとに永続的な事業活動を実現する。
- ・「夢と誇りを持てる会社」を創造する。

## コミュニケーションを密にすることで 次のステップへつなげる

建設業の就業者数は現在約490万人ですが、高齢化などにより今後大幅に減少すると予測されています。優良な建設には欠かせない存在である職長を引き続き確保していくため、「職長マスター制度」の運用を開始しました(P21参照)。優秀な職長さんの知恵と経験を現場運営に積極的にとり入れることで、当社と協力会社双方の収益向上に役立てようという考えです。

お客様との関係においては、普段お客様と接している営業担当者の意見を技術開発に反映させる仕組みとして、「ソリューション会議」を設置しました。また、「企画営業設計グループ」を新設し、設計担当者が初期の段階からお客様に接触することで、お客様の要望を的確に汲みとり、敏速にお応えできる体制も構築しています(P9参照)。

さらには、若手社員の意見を積極的に経営に反映し、経営への参画意識を高めるべく、「イノベーション会議」もスタートしました(P23参照)。

これらの取り組みが具体的な成果となって表れるにはまだ時間が必要ですが、今後ますますコミュニケーションの充実を図り、外部からの声、内部の声に真摯に耳を傾けながら、社内の改革を進めていきます。

## 現場の力を通じ、建設会社の 社会的使命を果たすために

当社の仕事は、多くの人たちの暮らしに利便性、安全性、快適性を提供するという社会的意義を有しています。一方で、環境に直接手を加えることは建設業の宿命でもあり、環境分野には当然注力していかなければなりません。ISO14001に適合した環境マネジメントシステムに従い適切に対応しているほか、CSR報告書やホームページを通じて、活動の詳細をお伝えしています。

事業としても、ダイオキシン類やPCBによる汚染土壌の浄化について、当社が開発してきたさまざまな技術を結集し取り組んでいるほか、工事を行う際は現場の状況を確認し、生物多様性に配慮した施工を行うなどしています(P16参照)。

建設会社にとっては現場こそが生産拠点であり、また、さまざまな関係者との接点を持つ、いわば社会に対する窓口でもあります。それゆえ現場には、地域の方々との融和や環境負荷の低減といった取り組みに加え、次世代の育成場所としての機能、あるいは環境貢献技術の実証機関としての機能など、CSRを果たすための多くの役割を求めています。

私はよくお客様に「なんでも言ってください、無理難題を言ってください」とお願いすることがあります。図面どおりにつくることが顧客満足に直結するわけではありません。お客様が潜在的に持つ要望を汲みとるには、現場が中心的な役割を担うことが必要なのです。今後も「最高の現場力をもって、お客様の笑顔を最大に!」をスローガンに、現場を支援する体制をさらに整えていきたいと考えています。



# 優良な社会資本の整備のために

高品質なインフラや建物をお客様に提供すること。それが私たち鴻池組の使命であると考えています。  
高いレベルの品質は、構造物の長寿命化につながり、長寿命化は地球温暖化防止の有効な手段となります。



## 既存躯体の有効利用と建物の長寿命化

### 既存地下躯体の利用

廃棄物の抑制は地球温暖化防止へ向けた重要な課題です。建物の長寿命化が、その主要な解決策ですが、部分的に活用することで廃棄物を減らすことができます。当社では、既存建物の地下外壁や基礎を新設建物に再利用する以下の技術について、積極的に取り組んでいます。

#### ①地下外壁を山留めとして利用

既存地下外壁の強度検討をした上で、山留め壁として利用し、その内側に新設躯体を構築します。

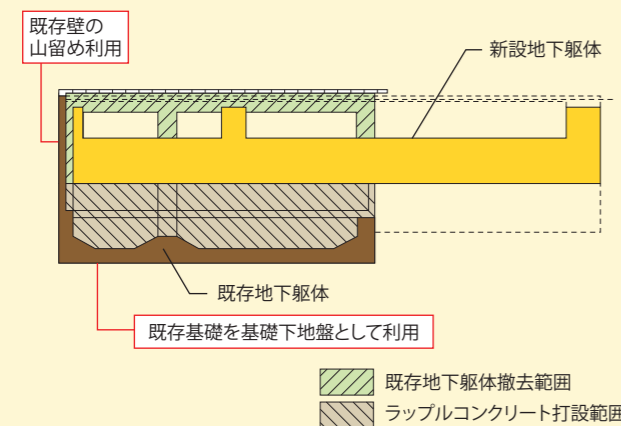
#### ②底版を基礎下地盤として利用

既存の底版を撤去せず、その上部に新設基礎を構築して基礎下地盤として利用します。既存と新設基礎の間にはラップルコンクリート(流動化処理土等)を充填し空隙をなくします。

#### ③底版を地盤アンカーの支持材として利用

地下工事中は地下水の被圧があると、浮き上がり力が発生します。地盤アンカーを用いて浮き上がり対策とする場合には、底版をアンカー定着する支持材として利用します。

#### ■山留め壁、基礎下地盤としての利用例



地下外壁利用例

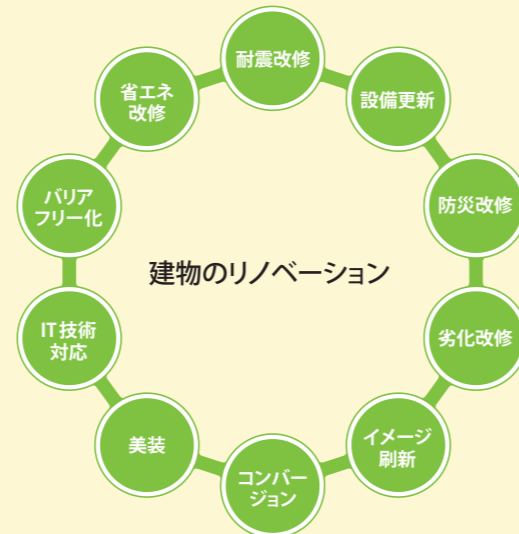


地下外壁・底版利用例

### リノベーションによる長寿命化

高度経済成長下で、私たちはスクラップ&ビルドというフロー消費型社会を続け、地球温暖化の原因をつくってきました。その反省から、環境負荷を抑え長期にわたり使用することができる「サステナブル建築」の必要性を痛感し、その普及に取り組んでいます。

「サステナブル建築」は新築だけでなく、既存建物への適用が重要であり、建物の状況の把握と、今後の使用予定に応じたリノベーション(総合的改修・改造)が求められます。特に安全性を高める「耐震改修」や、建物使用に伴うCO<sub>2</sub>排出を抑制する「省エネルギー改修」「設備更新」は、環境にやさしい建物へと導くための長寿命化技術です。



耐震改修の事例(学校)

#### イメージ刷新の事例



改修前



改修後

## トンネルの機能向上による長寿命化

### 活線隣接歩道増設工法

交通安全対策の一環としての歩道整備事業が、全国各地で歩道の増設あるいは増設という形で進められています。

しかしながら、トンネルや橋梁の区間については、経済性や用地取得などの問題から、これらの事業がなかなか進まない状況にあります。

本工法は、社会ストックである既設の道路トンネルの交通を確保しながら、隣接した歩道トンネルを安全かつ経済的に増設するものです。また、既設道路トンネルと新設歩道トンネルとの間に、防犯対策としての窓と避難口が設置された構造とすることで、歩行者に対する安全性を高めることができます。

[特許登録番号 4180437]

本工法の特徴は以下のとおりです。

- 坑口部の用地が狭くても建設できます。
- 社会ストックを活かしながら歩道を確保できます。
- 開口部の設置により防犯効果が期待できます。
- 活線拡幅工事に比べて経済的です。
- 歩道トンネルを車道トンネルの避難坑として利用できます。



「活線隣接歩道増設工法」概念図

## トンネル施工時における長寿命化技術

### 温度制御噴霧式養生システム(K-tics)

トンネル構造物の本体部材である覆工コンクリートの施工では、施工性、構造等の特殊性から、これまでコンクリート打設後の養生に関して十分な対策がとられてきませんでした。このため、養生不足による表面の欠陥(ひび割れなど)の発生、強度低下などによる長期耐久性低下の要因となっていました。

本工法は型枠脱枠後、移動式の養生台車を据えつけることにより、コンクリートを一定期間(7日間) 湿潤状態に養生できるよう工夫したものです。

具体的には微粒子状の霧発生装置により均一な湿度状態にある養生空間を形成し、事前解析による温度シミュレーションと現場における温度・湿度の制御により、最適な養生管理を実施します。その結果として品質性能の向上が可能となります。これまで、養生条件の厳しい北海道の2現場を含む全国の7現場に導入し、その効果を確認しています。

本工法の特徴は以下のとおりです。

- コンクリートの材齢ごとに最適な養生管理ができます。
- 表面の緻密化、強度発現の増進に寄与し、表面の欠陥の発生を低減することができます。
- 長期耐久性の向上、ライフサイクルコスト(維持管理、修繕更新費用)の低減、長寿命化を図ることができます。



温度制御噴霧式養生システム 現場適用状況



日本海を臨む「ホテル金波楼」「城崎マリンワールド」



# Interview

日和山観光様

## 長年にわたる工事の実績で「鴻池組に任せておけば安心」という信頼を寄せています。

### 困難な条件に適切に対応する工事

日和山観光は、地域の観光事業振興のため、創業者の今津文治郎が昭和9年に日和山海岸で水族館を開設したのが始まりです。当時、民間の水族館は珍しく、その意味では日本のマリンアミューズメントパークの草分けでもあります。

鴻池組に工事をお願いしたのは、昭和49年のホテル金波楼改築工事からですが、それ以前の建物はすべて自社で建ててきました。「みんなで考え、みんなで造る」というのが創業者のモットーであり、社長自らスコップをふるい、社員と一緒に旅館やレストランなどを造り上げてきました。

ホテル金波楼も城崎マリンワールドも山陰海岸国立公園の景勝地にあり、そのすばらしい自然に悪影響がないように、工事は細心の注意が必要です。また、工事期間中もホテルや観光施設は営業していますので、お客様の安全確保や騒音などへの配慮も常に必要です。城崎マリンワールドの各施設は波打ち際にありますので、特に冬は日本海の厳しい自然環境下での工事になります。

そうした困難な条件に適切に対応し、大きなトラブルもなく工事を進めていただいていることが、35年以上にわたって鴻池組に工事をお願いしている理由です。現在、「ホテル金波楼諸館」の客室



改築工事を行っておりますが、そこでも長谷川所長がホテルのスタッフと緊密に連絡を取り合い、宿泊のお客様からクレームがないように、常に配慮いただいています。

### 常に進化が必要な観光施設

お客様に心から楽しんでいただくことが、私たちの事業です。それには建物も魅力あるものでなければいけません。たとえば、城崎マリンワールドの各施設は日本海の景観とマッチした重厚な外観になるよう打ち放しコンクリートを採用しています。イルカとアシカのショーを開演しているシーランドスタジアムの支柱のない天井や、水族館の「シーズー」にある日本一の水深を誇る水槽など、どの施設も通常の建築にはない難しさがあります。私たちの難しい注文をカタチにしていくには、豊富な経験と高い技術力が必要です。

おかげさまで、城崎マリンワールドは但馬を代表する観光名所として、年間約50万人ものお客様に会場いただいています。しかも、リピーター率は60%にもなります。何度来られても、常に新鮮な楽しみを提供するために、毎年ショーの内容を変えたり、新しいアトラクションを追加したりと、私たちは常に進化を図っています。

今後も、さらに魅力を増すための改築や増築工事が必要になってくるでしょう。工事については鴻池組に任せていれば安心というように、今後もきめ細かな対応と高い技術力で、私たちを支えてほしいと思っています。



松本 良彦様  
日和山観光株式会社  
取締役 施設管理部 部長



### ●日和山観光様 主な工事

竣工	工事名
1975年	「ホテル金波楼」改築工事
1991年	「ホテル金波楼」増改築工事
1993年	城崎マリンワールド「シーズー」改築工事
2000年	城崎マリンワールド「シーランドスタジアム」建設工事
2003年	城崎マリンワールド「ダイブ」建設工事
2009年	城崎マリンワールド「カフェ&レストランテラス」建設工事

### ●ホテル金波楼

兵庫県豊岡市瀬戸1090  
電話:0796-28-2111  
http://www.kinparo.com/

### ●城崎マリンワールド

兵庫県豊岡市瀬戸1090  
電話:0796-28-2300  
http://www.hiyoriyama.co.jp/



## 日和山観光様からの信頼にお応えし但馬を代表する観光施設の工事に35年以上にわたって取り組んでいます。

クローズアップ  
日和山観光 施設工事

日和山観光株式会社様(以下、日和山観光様)は、日本海の雄大な景観を一望するホテル金波楼や、年間約50万人の観光客で賑わう城崎マリンワールドなど、但馬地方を代表する観光施設を幅広く展開されています。鴻池組は1974年から各種観光施設の工事を継続して担当し、厚い信頼をいただいています。

### 山陰海岸国立公園の景勝地で環境とお客さまに配慮しながら難工事に挑む

名湯で有名な城崎温泉から車で約5分の距離にある日和山海岸は、山陰海岸国立公園でも屈指の景勝地として知られています。日和山観光様がこの地に、水族館を中心とした観光事業を始められたのは、昭和9(1934)年にさかのぼります。その後、食堂、旅館、売店などを順次整備され、地域の観光振興に貢献されてきました。鴻池組は1974年の「ホテル金波楼」増改築から、水族館「シーズー」を中心にショーやアトラクションなど多彩な楽しみがある「城崎マリンワールド」の各種施設、さらに関連グループ会社が運営されているドライブイン、ゴルフ場のクラブハウスなども含めて、日和山観光様の主だった工事すべてを施工してきました。現在も「ホテル金波楼諸館」の客室改築工事が進行中です(2010年秋竣工予定)。

これらの建物は国立公園に指定されている山陰海岸沿いにあり、すぐ前の海はサザエやアワビの好漁場です。そのため、工事に際しては周辺環境への細心の配慮が求められます。また、営業中であるホテルや観光施設のお客様の安全確保や騒音などへの配慮も必要です。さらに、どの施設も海拔0メートルから30メートルの敷地にあり、波打ち際へのアプローチがないなど、工事にあたっては非常に難しい条件をすべてクリアしなければなりません。

鴻池組では各種の建築工事で培った技術や技法、ノウハウ、さらに土木技術なども駆使して、こうした難工事に挑んできました。今後も、誠実な施工と高度な技術で、日和山観光様の信頼と期待にお応えしていきます。

鴻池組からのコメント

チームの一員として、日和山観光様と素晴らしい関係を築いています。



長谷川 吉孝  
ホテル金波楼諸館客室  
改築工事 工事事務所長

私が日和山観光様の工事を初めて担当させていただいたのは、30年近く前のことになりました。以後、さまざまな工事に携わりましたが、どの建築も発注者、設計事務所、そして当社が一つのチームとして、みんなで知恵を出し合い、苦労しながら造り上げてきました。そうしたすばらしい関係があるので、難しい条件の工事でも乗り越えてこられたのだと思います。

日和山観光様とは、当社の諸先輩が35年以上にわたる信頼関係を築いてきました。その信頼にお応えするため、常に緊張感を持って誠実に対応していくことが、私の使命です。日和山海岸に来られたお客様に常に新鮮な感動を提供できるよう、日和山観光様はたえず進化されています。私たちは工事を通して、その進化のお手伝いをしていきたいと考えています。



宮崎 勝美  
山陰支店 豊岡営業所長

# お客様の満足のために

鴻池組は常にお客様の視点に立ち、価値あるソリューション(お客様の問題解決) & サービスを提供することで、真のお客様満足を追求していきます。



## お客様満足度向上への取り組み

鴻池組は顧客第一主義を掲げ、常にお客様の視点に立ち、「市場で何が求められているのか」「お客様は何を求めているのか」を追求しています。

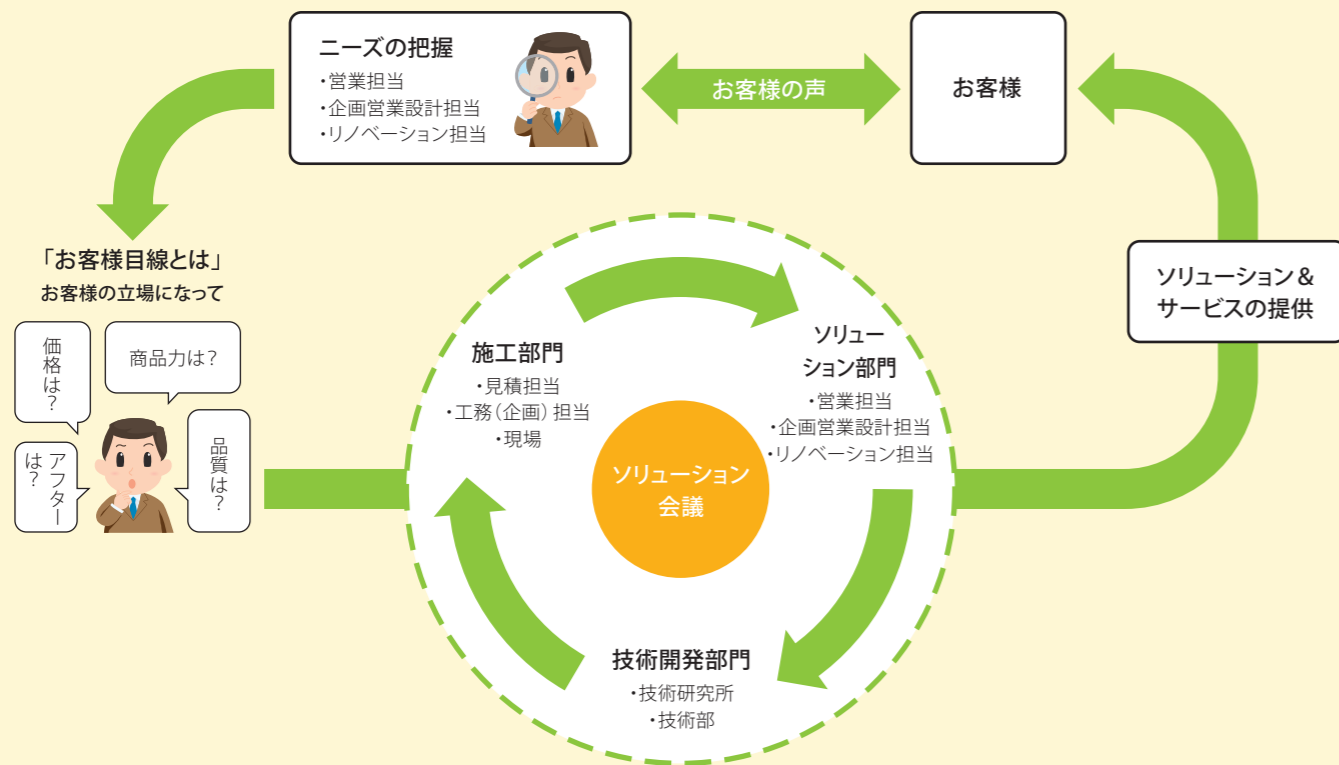
2009年5月には、お客様の抱える問題を解決するため、社内に「ソリューション会議」を組織しました。営業本部が主体となり、本社と本支店の営業・工務・設計部門のメンバーで構成しています。

特にお客様とのコミュニケーション機会に恵まれる本支店の営業担当者が、お客様の声(ニーズ)を取りまとめ、ソリューション会議でブレークダウンし、「製品やサービスの質と価格の関係」について、お客様目線での検証を行っています。

検証結果を技術開発の方向性にフィードバックすることで、お客様により満足していただけるよう、提案力を向上させる仕組みになっています。

2009年10月には、さらなる提案力の強化を図るため、設計部門に企画営業設計グループを新設しました。

また、近年ストック市場が拡大する中、お客様の資産のより有効な活用について提案できるよう、2010年4月にリノベーショングループを営業部門に新設。工務・設計部門の担当者も参画し、タイムリーな対応を目指しています。



## 企画営業設計グループ

2009年10月に新設された企画営業設計グループは、お客様目線のソリューション(お客様の問題解決)を常に考え、ゼネコンとしての総合力をフルに発揮した提案を行うための、いわばコーディネーターです。自らのニーズについて、明確に語られる

お客様はむしろ少数です。お客様の言葉に潜むニーズを設計のプロとして読み取り、的確に具現化し、タイムリーに提案していくための組織です。

### ●企画営業設計グループの業務

企画営業設計グループでは、従来の計画設計業務に加えて、ソリューションの観点に立ち、大きく二つの業務領域を明確にしました。一つは土地情報とセットになった新築案件への企画提案業務であり、もう一つは、フローからストック社会への転換を背景としたリノベーション業務です。

### ●企画提案業務

企画提案は土地と建物に関するハード面の提案にとどまらず、補助金活用や資金計画、事業収支計画などを提案することで、建設事業の川上段階から深く関わっていかうとするものです。そのために、土地情報は営業部不動産グループ、資金計画・事業収支は営業部、工程・工法提案は建築部と、さまざまな部門とのコラボレーションにより、お客様にとって最適な企画提案を心がけています。

### ●リノベーション業務

現存する建物の価値を高めて長く機能させることに主眼をおいたリノベーション案件が増加しています。特に耐震改修、省エネ改修は法改正の後押しを受け、さらには各種の補助金制度も追い風となって、社会的にも注目される市場となっています。

リノベーショングループと企画営業設計グループが連携を強化し、お客様の所有する建物に関するソリューションを提供します。



企画営業設計グループのミーティング

### VOICE



企画営業設計グループ  
担当者の声

井上 光二  
大阪本店 建築設計部 部長  
企画営業設計グループ

### ●戸惑いからのスタート

「営業」という言葉が部署名に加わることによる戸惑い、抵抗感。これが長く技術畑で仕事をしてきたグループ員の率直な感想です。取り組みのメニューが例示され、イメージが概ね確立されてのスタートでしたが、いざ動きはじめると、どう行動していけばいいのか? 他部署からは何でもやる「魔法の部署」のように理解されているのでは?と感じたこともあります。しかし、それが期待の現れであるなら、それに応えなければなりません。待っている姿勢から、自らが変わることの必要性が実感されてきたのは、数カ月が経過したころでしょうか。

### ●潜在する要望を形に…

最近、あるお客様から相談依頼を受けました。その時点で内容は不明です。まずは出向いてお話を伺います。徐々に求められていることが判明し、解決策について助言します。

しばらく経って同じお客様からまた別の案件についてご相談が…。こういう地道なことの繰り返し、お客様の信頼を得るために重要な要素なのではないかと感じました。

### ●さらなる展開～「リノベーショングループ」

そして2010年4月、「リノベーショングループ」が新設されました。建物再生に向けて総合的な改修を提案する「ストック&リユース」の時代に必須の部署です。営業部内の組織ですが、設計・見積・工務関係者を加えた「社内横断的組織」として、企画営業設計グループからも私を含む3名が関わることとなりました。部署名だけでなく、今度は実際に「営業」の一員として活動することになります。他部署のメンバーとも積極的に意見を交わし、お客様の立場に立った提案を目指して活動中です。

### ●お客様の満足のために…

従来の縦割り組織に風穴をあけた、というのがこの「リノベーショングループ」の最大の特徴といえます。そしてその機動力となっているのが「企画営業設計グループ」です。

従来の設計の枠にとどまらず、お客様の潜在的要望を掘り起こし、真にお客様の求めることを実現できるよう、一歩ずつ歩んでいるところです。企画営業設計グループは、着実に成長しようとしています。

# 環境負荷低減のために ～環境マネジメントシステム～

地球温暖化防止、廃棄物の減量とリサイクル、省エネルギー、環境配慮設計等について具体的な数値目標を掲げ、達成に向けた取り組みを通してゆたかな環境を創造していきます。



## 環境方針

鴻池組は、建設活動を通じて地域社会との相互信頼を深め、環境と調和を図りながら、良き企業市民として果たすべき責任を全うするとともに、健全な環境を次代に引き継いでいくため、環境経営を推進する。

法規制等の順守 … 環境に関する法令、ならびに地域社会との協定等の同意するその他の要求事項を順守する。

環境への取り組み … 環境マネジメントシステムを活用して環境負荷の低減に努め、継続的改善を図る。

- 建設作業に伴う地域住民への環境配慮
- 建設廃棄物の適正処理と減量化
- 建設作業に伴う大気汚染および地球温暖化の抑制
- 省エネ・省資源・3R(リデュース、リユース、リサイクル)の推進
- 生態系保全の推進
- 環境保全技術・手法の開発および提案

社会貢献 … 環境保全および環境創出技術を通じて、人と自然の調和したゆたかな環境の創造へ貢献する。

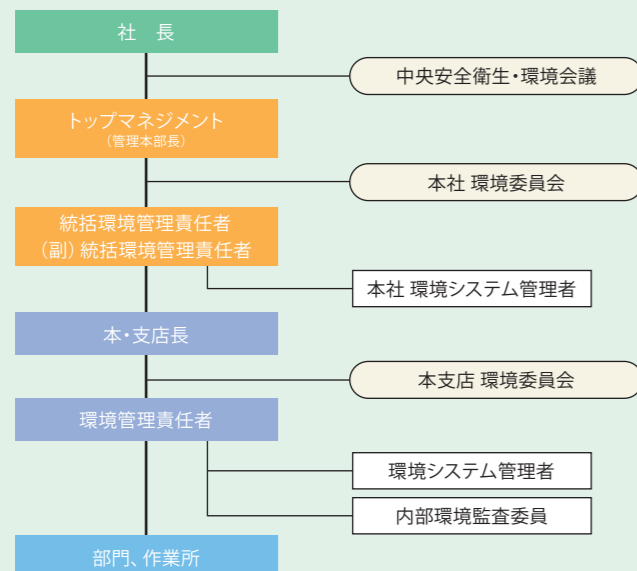
情報公開 … 環境保全の取り組みと実績を、ホームページおよびCSR報告書を通じて広く一般に開示する。

2009年5月29日

## 環境管理体制

社長を議長とする中央安全衛生・環境会議で、管理方針、方策などに関する重要事項を決定します。また、管理本部長をトップマネジメントとして環境マネジメントシステムを運用し、環境保全活動の推進と継続的な改善に取り組んでいます。

### ■環境管理体制



## 内部環境監査

内部環境監査委員による監査を年1回実施しています。また、4月～6月にはトップマネジメントによる本支店監査も実施しています。

(2009年度内部監査:  
30部門92工事事務所)



トップマネジメントによる本支店監査

## 外部審査登録機関による審査

当社の環境マネジメントシステムがISO14001規格に適合していることを検証するため、年1回外部審査登録機関(株)マネジメントシステム評価センターの審査を受審しています。

2009年度は11月18日～20日に受審し、観察事項2件、充実点12件がありました。

※観察事項…ISOの規格に抵触しないが、時間経過とともに環境に影響を与えるようであれば、検討を要する事項



外部審査

## 2009年度環境目標と実績 (2009年1月1日～2009年12月31日)

施工段階におけるCO<sub>2</sub>排出抑制に向けて目標に掲げていた、建設発生土場内利用率(運搬距離の短縮によるCO<sub>2</sub>削減)について、場内敷地等の問題により、土木・建築施工部門ともに目標を達成することができませんでした。また、省エネルギーの

面において、建築施工部門で工期短縮(維持管理エネルギーの削減)の目標を達成することができませんでした。

その他の目標については、良好な数値で目標を達成しました。

目的	2009年度目標	実績	評価	実施担当部門		
法令順守	環境災害の防止	環境災害件数	0件	0件	○ 全部門	
	社有車の燃料使用量の削減	前年度使用量を上回らないようにする	59.6ℓ/人	56.4ℓ/人	○ 管理部門	
地球温暖化防止	施工段階における二酸化炭素の排出抑制	建設発生土の場内利用率	85%	82.4%	×	土木施工部門
		燃料使用量の削減	前年度使用量を上回らないようにする	0.95ℓ/t	0.93ℓ/t	○ 機材センター部門
	用紙等を含む事務用品費の削減	2009年度予算対比3%削減	12.9%削減	○ 管理部門		
廃棄物対策とリサイクルの推進	廃棄物の最終処分量の削減	最終処分量前年度実績比2%削減	16.70%	7.2%	○ 土木施工部門	
			32.50%	30.7%	○ 建築施工部門	
省エネルギーの促進	電気使用量の削減	前年度使用量を上回らないようにする	98.8kwh/延㎡	94.7kwh/延㎡	○ 管理部門	
			12.6kwh/t	12.5kwh/t	○ 機材センター部門	
	工事施工における電力使用量の低減	工期短縮5%の工事件数を対象工事の半数以上とする	56.0%	32.9%	○ 土木施工部門 × 建築施工部門	
環境配慮設計の推進	総合評価入札における環境関連対応	提案事項の取りまとめ	—	164件	— 全部門	
		総合入札方式の入札案件のうち技術評価点で最高得点の80%以上を獲得	60%	85.7%	○ 土木技術部門	
	環境配慮設計の提案	省エネルギー配慮設計	22.2点	26.0点	○ 建築設計部門	
		リサイクル材採用配慮設計	12.2点	14.0点	○ 建築設計部門	
環境関連工事の受注協力	環境目的に関する設計提案ポイント	35ポイント/百億円	39.4ポイント/百億円	○ 土木技術部門		

【評価】○:目標を達成 △:目標は未達成だが前年度より成果がある ×:前年度より悪化

## 2010年度環境目標

2009年度の実績を踏まえて担当部門と協議を行った結果、しを行うことで、より効果的に運用できるよう改めました。2010年度も取り組み事項は継続し、目標値についてのみ見直

目的	2010年度目標	実績	実施担当部門	
法令順守	環境災害の防止	環境災害件数	0件	全部門
	社有車の燃料使用量の削減	前年度使用量を上回らないようにする	56.4ℓ/人	管理部門
地球温暖化防止	施工段階における二酸化炭素の排出抑制	建設発生土の場内利用率	88%	土木施工部門
		土砂の搬入・搬出量の削減	—	建築施工部門
	燃料使用量の削減	前年度使用量を上回らないようにする	0.93ℓ/t	機材センター部門
廃棄物対策とリサイクルの推進	廃棄物の最終処分量の削減	2010年度予算の厳守	—	管理部門
		最終処分量前年度実績比1%削減	6.2%	土木施工部門
		31.50%	建築施工部門	
省エネルギーの促進	電気使用量の削減	前年度使用量を上回らないようにする	94.7kwh/延㎡	管理部門
			—	—
	工事施工における電力使用量の低減	工期短縮5%以上達成の工事件数を対象工事の昨年度実績以上とする	56%	土木施工部門
		工期短縮2%以上達成の工事件数を対象工事の50%以上にする	50%以上	建築施工部門
環境配慮設計の推進	総合評価入札における環境関連対応	提案事項の取りまとめ	—	全部門
		総合入札方式の入札案件のうち技術評価点で最高得点の80%以上を獲得	75%以上	土木技術部門
	環境配慮設計の提案	省エネルギー配慮設計	26.0点	建築設計部門
		リサイクル材採用配慮設計	14.0点	建築設計部門
環境関連工事の受注協力	環境目的に関する設計提案ポイント	38ポイント/百億円	土木技術部門	

# 環境負荷低減のために ~取り組み内容~

工事現場から発生する産業廃棄物の発生を減量化する取り組みや、地球温暖化防止のためにCO<sub>2</sub>排出を抑制する取り組みを積極的に行っています。



## 産業廃棄物減量化への取り組み

### 産業廃棄物減量化の検討

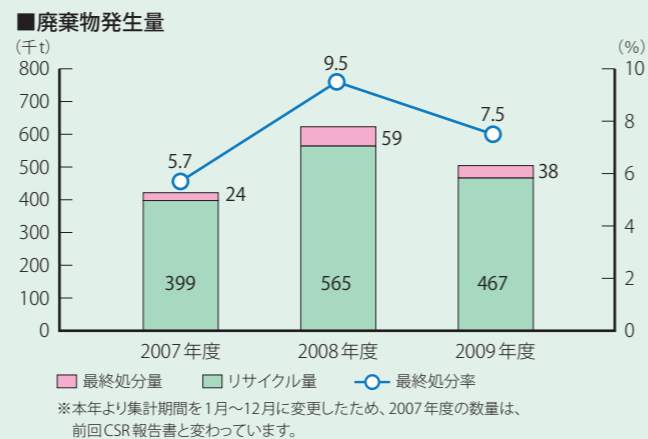
工事着工時に行なわれる基準打ち合せの際に、産業廃棄物の発生量を予測し、発生抑制するための手法などを検討しています。また、産業廃棄物処理業者については、本支店で処理施設の視察を行い、推薦業者名簿を作成することで、優良業者の選定に努めています。

事業所	事業名	発生種別	発生量(千t)	リサイクル量(千t)	最終処分量(千t)	最終処分率(%)
福岡支店	九州大学(元岡)実験研究棟新築工事	建築廃材	100	95	5	95.0
福岡支店	九州大学(伊都)全学教育施設棟新築その他工事	建築廃材	150	145	5	96.7
福岡支店	NTT横須賀研究開発センター	建築廃材	80	75	5	93.8
福岡支店	岡崎市図書館交流プラザLibra	建築廃材	120	115	5	95.8
福岡支店	此花下水処理場ポンプ場築造工事	建築廃材	100	95	5	95.0
福岡支店	仁賀ダム本体工事	建築廃材	100	95	5	95.0
福岡支店	福岡市都市景観賞	建築廃材	100	95	5	95.0
福岡支店	福岡市都市景観賞	建築廃材	100	95	5	95.0
福岡支店	建築・設備維持保全推進協会	建築廃材	100	95	5	95.0
福岡支店	愛知県	愛知まちなみ建築賞	100	95	5	95.0

工事別産業廃棄物処理計画書・実施書

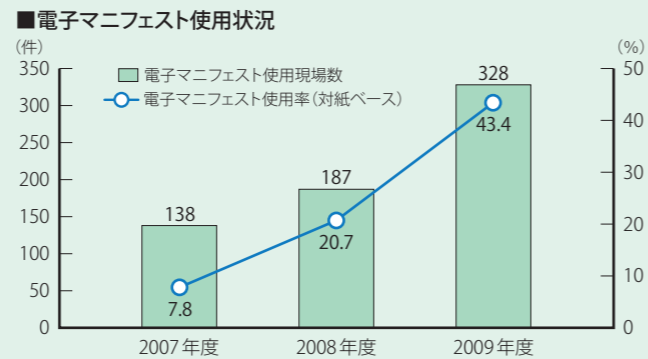
### 建設廃棄物排出状況

2009年度の建設廃棄物発生量は505千tとなり、2008年度と比較して19%減少しました。2008年度の発生量、最終処分率の増加を受け、工事事務所で排出抑制、リサイクルの推進に取り組んだ結果、最終処分率は2ポイント良化しました。今後も着工前の低減計画、分別排出を促進し、一層の排出抑制、最終処分率の低減に努めます。



### 電子マニフェスト

2006年度より導入を推進している電子マニフェストについては、年々使用現場数、発行枚数とも増加しています。



本支店による処理施設視察

### 環境関連表彰の受賞

工事事務所で取り組んでいる、3R活動、CO<sub>2</sub>削減活動、景観保全などに対して、右の団体より表彰を受けました。

#### ■ 2009年度外部表彰実績

表彰機関	賞名	工事名称
リデュース・リユース・リサイクル推進協議会	会長賞	此花下水処理場ポンプ場築造工事
リデュース・リユース・リサイクル推進協議会	会長賞	仁賀ダム本体工事
福岡市	福岡市都市景観賞	九州大学(元岡)実験研究棟新築工事
福岡市	福岡市都市景観賞	九州大学(伊都)全学教育施設棟新築その他工事
建築・設備維持保全推進協会	BELCA賞	NTT横須賀研究開発センター
愛知県	愛知まちなみ建築賞	岡崎市図書館交流プラザLibra

## 地球温暖化防止への取り組み

### チャレンジ25キャンペーン

CO<sub>2</sub>マイナス25%の達成に向けたチャレンジ25キャンペーンに参加の宣言を行い、ISO14001とあわせて活動を実施しています。この活動は施工分野のみではなく、設計、オフィス活動など、当社の事業活動すべてにおいて適用します。

次世代に良好な環境を引き継ぐため、積極的な活動を行っています。



チャレンジ25宣言証

### 施工段階におけるCO<sub>2</sub>排出量の推移

2009年度の施工段階におけるCO<sub>2</sub>排出量原単位は、34.2t-CO<sub>2</sub>/億円となり、前年度比26.2%増となりました。大型建築工事の開始時期にあたり、重機稼働数、建設発生土の運搬回数などが増加したことが原因です。

1990年度比で原単位は8.9%の増加、総排出量は44.6%の減少となりました。2010年度は、建設発生土の再利用などに努め、CO<sub>2</sub>排出量原単位の削減に取り組んでいきます。

#### ■ 施工段階におけるCO<sub>2</sub>排出量(総量、原単位)



### CO<sub>2</sub>排出量の削減活動

建設業においてCO<sub>2</sub>の排出量が最も多いのは、建設重機と建設発生土等の運搬車両によるものです。工事事務所では、アイドリングストップ、省燃費運転の励行を協力会社へ要請しています。

また、省燃費運転を実践するための教育を工事事務所で行っています。今後もこうした活動を通じてCO<sub>2</sub>発生抑制に努めます。



工事事務所での座学および実技講習会

### 工事事務所の取り組み事例

岡崎花園造成工事(愛知県岡崎市)では、森林造成に使用する土砂の運搬について、近隣ならびに周辺環境への配慮、CO<sub>2</sub>排出抑制のために、車両による運搬ではなく、ベルトコンベアによる運搬を行いました。

これにより、10t積みダンプ換算で96,000台相当、排出量にして差し引き190CO<sub>2</sub>-tのCO<sub>2</sub>発生を抑制できました。



ベルトコンベア稼働状況

ヘッドシューター



# 環境の保全・修復のために

鴻池組は「環境保全および環境創出技術を通じて、人と自然の調和したゆたかな環境の創造へ貢献する」ことを環境方針の中に定め、各現場でさまざまな活動を行っています。



## 環境修復への取り組み事例

### ●岐阜市北部地区 産業廃棄物不法投棄事案 特定支障除去等事業対策工事

産業廃棄物処理業者による、約75万㎡にもおよぶ廃棄物の不法投棄が発覚し、その後の調査で、埋められている廃棄物が燃焼していること、また、その燃焼によりダイオキシン類が発生していることが確認されました。

このダイオキシン類の、大気や浸出水による拡散のおそれが生活環境保全上の支障と特定され、この支障を除去するために「燃焼部分の消火」「高濃度のダイオキシン類に汚染された廃棄物の除去」「急峻なり面の崩落防止」を当社が施工しています。



廃棄物選別作業



施工状況

## 施工概要

工事は大別すると①消火対策工事②水処理対策工事③廃棄物掘削・選別工事④場内整備工事の4つに分けられます。一番のポイントである消火対策工事では、はじめに補助消火として水蒸気の注入を行います。その後ボーリングで上部から穴を開け、注水することにより安全で確実な消火を行っています。

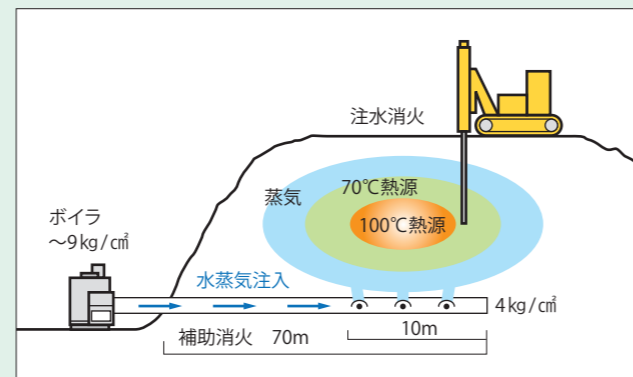
## 水のリサイクル

当工事では消火作業に大量の水を使用しますが、使用した水にはダイオキシン類などの有害物質が含まれる可能性があります。そのため水処理対策工事としてダイオキシン類を除去する処理を行い、その水を再度消火水として利用しています。

## 土のリサイクル

廃棄物については、ダイオキシン類に高濃度に汚染されているかどうか峻別を行い、汚染されていないと判断されたものは、紙や木くずなどの可燃物、金属くずなどの金属類、土砂などの不燃物に選別されます。テントの中で、ベルトコンベアに乗って流れてくる廃棄物が機械と人の手によって選別されていき、可燃物は現場の外へ適正に搬出処分、金属類はリサイクル、土砂などの不燃物は再度ダイオキシン類に汚染されていないことを確認したうえで、現場内の整形土として再利用しています。

### ■消火対策工概要図



当工事は今後、2012年までダイオキシン類などに汚染されている可能性のある不法投棄廃棄物を掘削除去していく予定です。地域の方々の不安を払拭し、1日も早く安全で美しい元の風景に戻すべく工事を進めています。

## 生物多様性保全への取り組み事例

### ●嵯峨野線宇津根地区路盤新設他工事

工事を行うにあたり、事前に現場の状況を確認したところ、工事区域内の桂川支流に国の天然記念物「アユモドキ」が生息していることが判明しました。

アユモドキはドジョウ科の淡水魚で、姿形や動きがアユに似ていることからそう呼ばれていますが、ドジョウの間らしく口髭を生やしています。生息環境の悪化により数が激減し、環境省レッドリストの絶滅危惧IA類(CR)に指定され、現在では琵琶湖淀川水系および岡山県の一部にのみ生息する非常に貴重な魚です。



アユモドキ※

このアユモドキの大きなすみかが橋台施工箇所付近にあることが確認されたため、施工計画を立案するにあたっては、行政、専門家、発注者および当社で協議を繰り返し、アユモドキの生息地を守りながらの施工方法を検討しました。



アユモドキの生息地

## 橋をスライドして

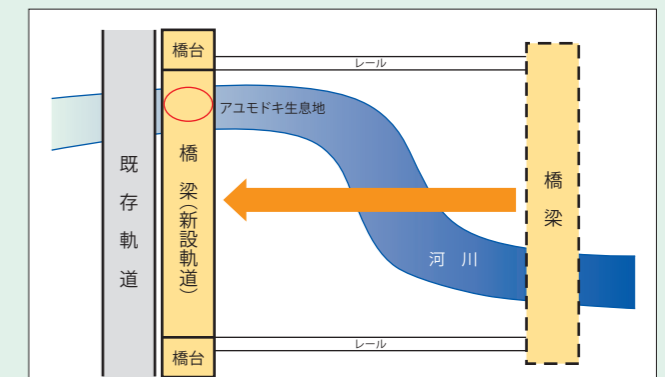
施工方法を検討した結果、橋台の施工時には振動・騒音の少ない工法を採用したり、濁水流出防止のために濁水処理設備を設置したりといった工夫を行いました。また、橋梁の施工時には、橋梁の組み立てをすみかの近くでは行わず、別の場所で組み立て、設置すべき場所までレールを引いてその上をスライドさせて運んでくる横引き工法を採用しました(右図参照)。

この工法を採用することで、アユモドキの生活に悪影響を与えることなく、無事に橋梁を設置することができました。



橋梁横引き状況

### ■横引き工法の概要図



## さまざまな人たちの協力によって

アユモドキ保全活動は、行政やNPO、大学関係者など幅広い人たちが関わっており、工事を進めるにあたっては、いろいろと貴重なご意見をいただきました。また、工事により影響を受ける可能性のある水路はすべて調査していただき、アユモドキ以外の生物も含めて施工中一時的に避難させるため、関係者やボランティアのみなさんと協力して捕獲イベントを開催しました。捕獲した生物は、亀岡市より提供を受けた飼育場所で大学生のみなさんに飼育していただき、工事完了後に元の場所に放流しました。

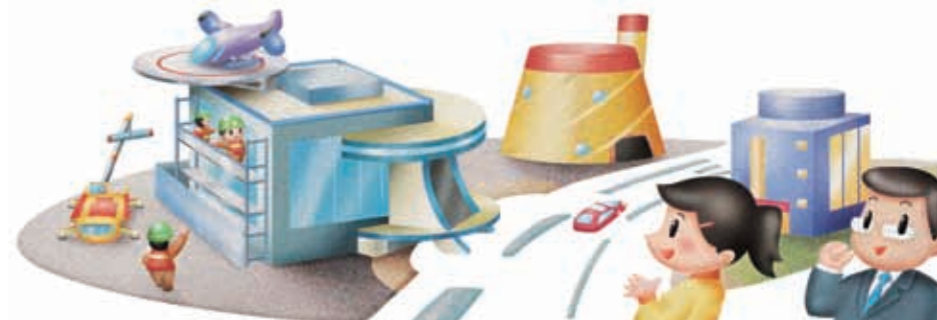


捕獲イベント風景

こうしてさまざまな人たちの協力により、アユモドキの生息地を守りながら無事に工事を終えることができました。

# 社会的価値向上のために ～地域社会とのつながり～

鴻池組は、地域社会とともに発展しつづける企業でありたいと考えています。  
「共生」を柱に、従業員一人ひとりが「良き市民」として地域社会に参画できる企業を目指します。



## 共生

コミュニティとの積極的な関わり

## 貢献

よりよい社会の実現に向けて

### コミュニティとの積極的な関わり

#### 現場見学会の開催

建設工事は、地域社会の方々にさまざまな影響を与える事業です。時に振動や騒音を発生させて迷惑をおかけしたり、危険回避のため高い塀で囲うことで、不安を与えてしまうこともあります。

鴻池組では、現場見学会を積極的に開催し、工事現場で働く従業員が地域社会の方々と直接対話することによって、工事の安全性や意義を十分にご理解いただき、地域の方々のご不安を少しでも解消できるよう努力を続けています。また、解放的な現場を心がけることで現場の従業員も、より緊張感を持って工事に取り組むことができます。

また、鴻池組では、自治体職員の方々を対象とした現場見学会を実施し、発注者と公的機関とのコミュニケーションを促進

するなど、さまざまな形で建設工事への理解を深める活動を行っています。



#### 現場所長の声

蓮池 巧  
北陸新幹線 滑川大掛高架橋工事  
工事事務所長

今回の見学会に参加された地方自治体職員の方々から、現場視察後、施工方法、技術面、品質管理面、安全面、協力会社等々に関し多岐にわたる質問があり、「土木技術者」として、同じ目線でいろいろな問題意識を持っておられることを痛感しました。

後日、「参加した若手課員が、日ごろの疑問が解消し、とても参考になったと喜んでいただ」とお聞きし、新幹線事業への理解度向上に多少なりとも貢献できたことをうれしく思いました。



岡崎市岩中町住民を対象とした現場見学会  
第二東名高速道路 岩中工事  
(愛知県岡崎市)



富山県土木部職員の皆様を招いて現場見学会を開催  
北陸新幹線 滑川大掛高架橋工事  
(富山県滑川市)

#### 地域行事への参加

工事を円滑に進めるためには、地域の方々に工事についてご理解いただくだけでなく、現場の従業員が地域を理解することも大切であると考えています。そこで鴻池組では、地域社会とのコミュニケーションの一環として、地域行事に積極的に参加

するよう心がけ、相互理解を深める取り組みを行っています。

また、こうした活動を通じて、工事竣工・引渡し後も、発注者やエンドユーザーの方々が地域社会に溶け込みやすい環境づくりに努めています。



仁賀町れんげ祭りに参加しての餅つき風景  
仁賀ダム本体工事  
(広島県竹原市)



品川区の方々との「川の日」イベントへ参加  
東京都勝島ポンプ所流入管渠工事  
(東京都品川区)



通学の生徒への声かけ安全啓発活動  
2008-2010年度 影野トンネル北工事  
(高知県高岡郡)



豊作を祈る地元秋祭りへの参加  
米原BP入江地区道路改良工事  
(滋賀県米原市)

#### 地域社会とのコミュニケーション実践例

2008年12月、2日間にわたり、地元の幼稚園児110名を招待し、記念イベント「揖屋工区調整池でお絵かき大会」を開催しました。発注者や現場所長から調整池の役割などを説明した後、調整池の底面をキャンバスにして、思いおもい、色とりどりの絵を描いてもらいました。

また年少組の園児たちには、手作りの凧あげや、ボール遊びなど、調整池の稼働後には体験できない遊びを楽しんでもらいました。

このイベントを通じて、地域社会の方々に、本事業が担う役割などへの理解をさらに深めてもらうことができました。



イベントに参加された意東幼稚園の園児たち  
(島根県八東郡)



青空の下でお絵かき

#### 「子ども110番工事事務所」の設置

子どもが巻き込まれる事件・事故の被害を少しでも減らすべく、試験的に「子ども110番工事事務所」を設置しました。安全管理の面から、すべての現場で取り組める活動ではありませんが、条件が整えば、今後拡大していきたい活動のひとつです。



子ども110番工事事務所 (仮称) 福祉センター建築工事 (愛知県豊田市)

#### VOICE



#### イベントに参加された幼稚園の先生の声

福田 顕規 様  
意東幼稚園 教諭

話をいただいたときには、興味深い活動だと思っただけで、そんなに広いところで、子どもたちがうまくできるのかと不安がありました。しかし実際に描き始めると、最初は隅で固まっていた子供たちが、だんだん広がり、自由に喜々として絵を描きはじめ、私たちも楽しくなりました。

その際に、現場の方が、危ないところがあればやさしく注意をされたり、子どもたちも工事のことを尋ねたり、お互いにコミュニケーションが取れたことも有意義でした。こちらの現場は、園児たちの通学路にもあたりますので、安全・安心の面でもつながりができたことは、とても良かったと思います。このような機会は、なかなかないと思いますが、機会があれば、他の園児たちにもぜひ経験させてあげたい活動でした。

#### 清掃活動の実施

建設工事を行うにあたり近隣環境を汚すことのないよう、さまざまな配慮や工夫を行っています。さらに、工事に携わる一人ひとりが自主的に清掃活動を行うことで、現場周辺の美化に努めています。また、多くの現場で、地域主催の清掃活動に参加するなど、積極的かつ広範囲な取り組みを行っています。



葛原浦海岸清掃活動へ参加  
東九州道(蒲江～県境)浦之迫トンネル南新設工事  
(大分県佐伯市)



職長会主催による付近一斉清掃  
(仮称) NFC丸の内ビル新築工事  
(愛知県名古屋)

# 社会的価値向上のために ～一人ひとりができること～

「常に社会から求められ、社会に貢献できる鴻池組」であるためには、よりよい社会の実現に向けて、一人ひとりが「できることから実践していく」意識を持つことが大切だと考えています。



## よりよい社会の実現に向けて

### 海外でのエイズ対策教育の実施

鴻池組は、1958年インドネシアにおける紡績工場の工事を皮切りに海外へ進出し、1980年代に入ると本格的に海外工事に取り組みはじまりました。特に開発途上であったアフリカ諸国の基盤整備工事に積極的に参加し、現在も多くの工事を施工しています。

そのアフリカ諸国では、1990年代よりHIV感染が大きな問題となっています。特に南部アフリカはHIV感染者率が世界で最も高いといわれており、各国が種々の予防や治療対策を行っています。鴻池組では、現在橋梁工事を施工しているモザンビークにおいて、近隣住民およびローカル作業員を対象としたエイズ対策教育を企画し、工事事務所の近郊都市に派遣されている海外青年協力隊(JOCV)の協力を得て、エイズの恐ろしさや予防方法などの教育を実施しました。

今後も地域の実情に応じた取り組みを続けていきたいと考えます。



エイズの怖さを現地の踊りで表現 (モザンビーク・キリマネ市)



エイズ教育の実施状況 (モザンビーク・キリマネ市)



青年海外協力隊の方々の声(1)

二村 輔 様  
青年海外協力隊

このような場をいただき、我々協力隊員としてはこの上なくうれしく思っております。成果の程をモニタリングすることはできませんが、ぜひ継続して実施していきたいと思っております。モザンビークだけに限っても、エイズ以外に女性の社会進出、環境問題、教育機会の均等と日本にはないさまざまな問題があります。これらは我々国際協力に従事している者にとっては無視できない問題であり、今後も企業様と協力できる機会があることを願っております。



VOICE

青年海外協力隊の方々の声(2)

石黒 千晶 様  
青年海外協力隊

今回で依頼をいただき、キリマネで活動する隊員3人で協力してエイズ対策教育を行うことができたことをとてもうれしく思っています。同じ任地においても、職種の異なる隊員と現地人がともに一つのことを成し遂げる機会は少なく、今回の経験は私たちにとって学びの多いものとなりました。モザンビークでのエイズ感染は年々上昇しており、病院や学校だけの予防教育ではとても十分とはいえません。

このような作業員や近隣住民に対する予防教育は見落とされている部分であり、今回は貴重なエイズ対策教育の場だったと感じています。幅広い対象に向けた継続した予防教育のため、ぜひ今後も協力して活動していきたいと思っております。



VOICE

青年海外協力隊の方々の声(3)

大町 佳代 様  
青年海外協力隊

今回のエイズ予防啓発活動のように、テレビ局などの協力を得て、地域社会に企業としての社会貢献を発信することも、現地の人々にとって情報の利益となると思っています。現地の人々にとっては、企業が行っているプロジェクトに対する興味はあるものの、なかなか知る機会がないというのが現状です。

今回のように企業が行っている社会貢献を、その企業のプロジェクトも含めてテレビやラジオなどのメディアを利用し地域に発信することは、現地の住民たちが自国で行われていることを知るうえでも有益なものとなると思っております。

### 「名チャリ実験」への参加

現在、日本で社会問題となっていることの一つに、市街地における自転車の放置があります。放置自転車は人や車の交通を阻害するだけでなく、撤去や廃棄に多くの費用と労力が投じられています。

この問題を解消するため、2009年秋から冬にかけて、名古屋市で「名チャリ社会実験2009」という取り組みが試験的に実施されました。これは無料の会員登録をすることによって、名古屋市内の放置自転車を、ステーション(専用の貸出・返却場所)であれば、どこでも借りて利用できるというものです。放置自転車を有効活用できるうえ、自動車利用により発生するCO<sub>2</sub>排出量の削減が期待されます。

この実施期間は、約2ヵ月と短いものでしたが、鴻池組も会員登録を行い、営業活動などの外出時に利用しました。こういった試みに参加することは、社会問題に対する意識の向上をもたらします。鴻池組は職員一人ひとりが問題意識を持って行動し、より良い社会の実現に貢献したいと考えています。



VOICE

「名チャリ実験」参加者の声

柏原 利彦 様  
名古屋支店 総務部総務課 主任

今回で3回目となる社会実験は「ビジネス利用」の可能性も追求したいという趣旨でしたので、さっそく法人会員登録を行いました。さわやかな秋晴れの日の自転車は気分も上々でした。

### エコキャップ運動の推進

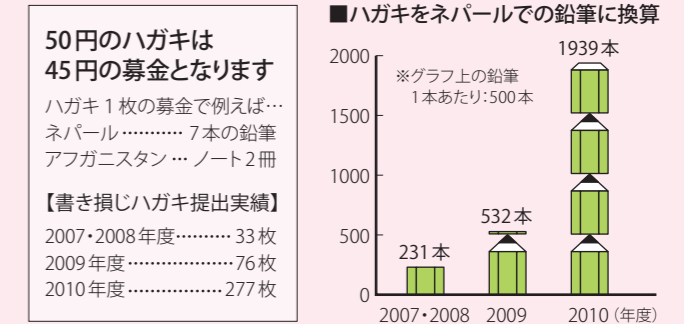
社内にペットボトルキャップを集める収集箱を設置し、集まったキャップを専門のリサイクル業者へ発送しています。

この運動はNPO法人エコキャップ推進協会が実施しているもので、リサイクル業者からの売却金は、ワクチン購入費として発展途上国へ寄付されています。

### 「書き損じハガキキャンペーン」への協力

世界には、経済的な理由などにより学校へ通うことが困難な子どもがおよそ7,500万人いるといわれています。社団法人日本ユネスコ協会連盟では、そんな子どもたちへ教育の機会を与える運動として、世界寺子屋活動を行っています。その活動の一つに「書き損じハガキキャンペーン」があり、鴻池組は2007年度よりこの活動に賛同し、社内で集めた未使用ハガキを同団体に寄付しています。

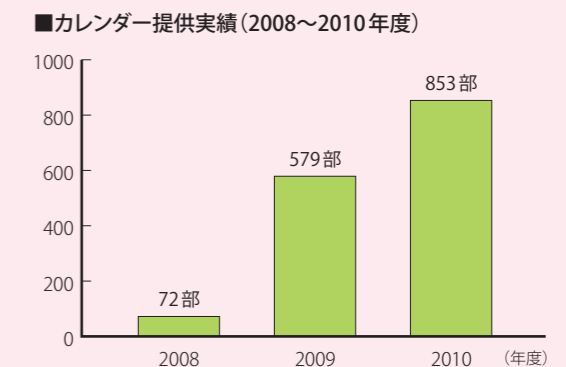
「一人でも多くの子どもたちに学びの場を提供する」—鴻池組は微力ながら、今後もこの活動を支援し協力していきます。



### 「チャリティカレンダー市」への協力

「チャリティカレンダー市」という催しをご存知でしょうか。この催しは、不要なその年のカレンダーをチャリティバザーで売るといふもので、1997年から特定非営利活動法人日本災害救援ボランティアネットワークにより、毎年1月初旬に開催されています。その収益金は、植林活動を行っている団体への寄付金や災害被災者支援活動費として利用されています。

企業では毎年未使用のカレンダーが処分されてきました。鴻池組では有効利用のため、2008年より社内の余剰カレンダーを集め、カレンダー市に無償提供しています。



# 「働きがい」の創出のために

鴻池組は、建設現場が常に「働きがい」に満ちた職場になるように、協会社とともにさまざまな取り組みを行っています。



## 職長マスター認定制度

### 「職長マスター認定制度」の概要

鴻池組は、2010年度より「職長マスター認定制度」の運用を開始しました。これは、優秀な職長を職長マスターとして認定し、工事計画および工事施工に積極的に携わってもらうことで、現場運営の効率化、工期短縮などの「生産性と収益性の向上」を目指すものです。

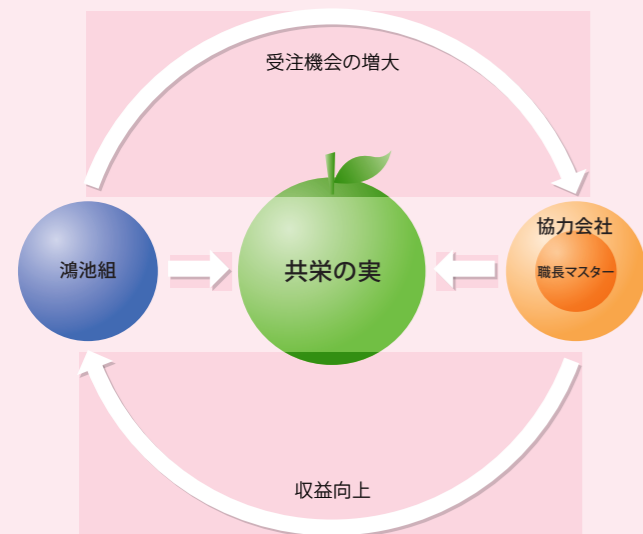
また、協会社にとっては、優秀な職長の育成を受注機会の増大につなげるという、協会社と鴻池組の「共栄の実」を確保するための取り組みと位置づけています。

### 「職長マスター」認定要件

以下の要件のうち、①および②～④の要件のうち2つ以上を満たすと認められる職長を職長マスターとして認定しています。

- ①コスト低減に向けた活動を積極的に実践できる。
- ②工程管理に優れるとともに、強力なリーダーシップで他職種も含めて現場運営を牽引していく能力がある。
- ③施主要望に沿った品質管理に当社と一体となって取り組める
- ④安全や環境面で災害等を発生させぬよう、適切な対応を講じることができる。

### ■職長マスター認定制度 概念図



### ■職長マスター認定制度 運用計画例

段階	内容	出席者
工事契約前 (見積段階)	受注前施工検討会	出席者
	・見積段階の工事計画提案 ・コストダウン案の提案	・職長マスター ・見積担当者 ・工務担当者
工事契約～ 着手	着前会議	出席者
	・施工方法、手順の確認、提案 ・仮設計画、工程の確認、提案 ・作業役割分担の確認 ・コストダウン策の提案	・職長マスター ・関連職種職長 ・工事事務所長 ・店内管理者
工事期間	施工中フィードバック会議	出席者
	・着前会議打合せ事項の見直し ・さらなる良化策の提案	・職長マスター ・関連職種職長 ・工事事務所長 ・店内管理者
工事竣工後	竣工後フィードバック会議	出席者
	・施工方法、手順の検証 ・仮設計画、工程の検証 ・コストダウン策の検証 ・今後課題の抽出	・職長マスター ・関連職種職長 ・工事事務所長 ・店内管理者

VOICE



「職長マスター認定制度」  
担当者の声

竹下 浩  
大版本店 建築部長

### ●職長マスター認定制度の導入

当社は従来から「生産性向上委員会」「着前会議(着前検討会)」など現場生産性の向上を目指した取り組みを、鴻池組・協会社が一体となって実施してきました。しかし、建設産業を取り巻く環境が厳しさを増す中、さらに連携を深める取り組みが必要となってきました。このような中で、受注前、受注後にかかわらず、職長の方々の意見を工事計画や現場運営に積極的に取り入れ、職長間の情報共有を行い、優秀な職長を育てることによって、受注機会の拡大と収益の向上を目指す「職長マスター認定制度」を始めました。

### ●職長マスターの役割

具体的には「徹底した計画と管理による3M(無理、無駄、ムラ)の排除」「発注者・設計事務所の要望に沿った品質管理」「安全・環境面での災害の未然防止」に職長マスターは当社と一体となり、強力なリーダーシップを発揮していただきたいと考えています。

### ●今後への期待

現在、躯体職種を中心に建築で17名、また土木で9名の方を認定し、大版本店としての制度がスタートしました。今回認定された方たちは、現場間・職長間の情報共有の要となり、匠集団「チームKONOIKE」の軸を担い、現場運営の原動力となっていたいただける方たちです。今後より多くの優秀な職長を任命し、大版本店全現場での活動となるよう、幅を広げて取り組んでいきたいと思ひます。

VOICE



職長マスター  
所属会社の声

渡辺 睦翁 様  
翁有建設株式会社  
代表取締役

### ●職長のやりがいにつながることを期待

職長マスターの取り組みについては、現場運営の効率化、生産性の向上につながるだけでなく、安全面や品質面でもよい影響が出るものと思っています。また、現場の第一線で活躍している職長をこういった形で評価していただけるのは、私ども協会社からすると非常にうれしいことで、職人の地位向上、ひいては「本人のやりがい」にもつながるものと期待しています。

現在、大阪の建築の現場では、ほぼすべてで着前会議が実施されていますが、私どもが工事受注前や工事竣工後に関することは、ほとんどありませんでした。これからは、そういった場にも職長マスターが参加し、意見を述べたり要望を伝えたりすることで、今以上の収益向上につながればと思います。

VOICE



職長マスターの声

竹島 民博 様  
翁有建設株式会社  
職長

### ●今後の課題を次の現場に生かして

今回は記念すべき第1回の職長マスターに認定いただき、大変光栄に思います。これからは工事に着工前から関わっていくことで、少しでも仕事の進み具合がよくなるようにもっていき、それによってコスト縮減、職人の賃金アップが叶えたいと思っています。

そのためにも、積極的に打合せの場に参加したいと思ひますが、職長マスターとして受注前から関わっていく中で、自分たちの意見がどこまで役に立つのだろうかといった不安もあります。

これからは工事竣工後のフィードバック会議にも参加することで、着前会議などで提案した施工方法やコストダウン策の検証、反省を行い、今後の課題を抽出して次の現場に生かすことができればと思っています。

# 仕事の「質」を高めるために

従業員が「働きがい」を持っていきいきと仕事に従事するためには、仕事の「量」に追われる環境を改め、仕事の「質」を高めていく環境づくりが必要であると鴻池組は考えます。



## イノベーション会議の開催

イノベーション会議とは、会社に対して経営改善に関する提言を行うための若手社員で構成される会議であり、斬新な着想や意見を会社経営に役立てること、ならびに若手社員に経営参

加の機会を与えることで意欲を高めるとともに、次世代のリーダーを育成することを目的に新設されたものです。



イノベーション会議  
出席メンバーの声(1)

小島 淑之  
大阪本店 建築設計部設計課 主任

### 会社の改革をめざして

このような会議を開催したことに対して、当社も本気で体質を変え、ボトムアップで意見を取り入れ、会社の変革を目指していることを実感しました。メンバーも全国各部門から

集まっていますので、自分自身にとっても恵まれた機会を与えられたと喜びを感じました。

会議では問題点の抽出は数多くできるものの、なかなか抜本的な解決策に辿り着けないもどかしさがありますが、継続して会議、検討を行うことによって、会社体質の改善につながると考えております。

会社運営に直結するテーマを扱っているの、抜本的な改革は難しいですが、今後も継続して取り組み、一歩ずつ良い方向に向かって行けばと考えております。



イノベーション会議  
出席メンバーの声(2)

井澤 武史  
本社 土木本部企画部 企画課長

### 会社の問題点に共通認識を持ち、前へ進む

メンバーに選ばれた時は正直とまどいました。これまで所属した部署における問題点については対応してきたつもりですが、会社全体の問題点の抽出や改善という、経営面から考える機会があまりなかったからです。土木系職員として

それなりに分かっているつもりでしたが、いざ会議に参加して具体的なことを検討すると、分かっていないことが多くありました。全国からメンバーが集まっていますので、同じ部門でも地域によって考え方も違うことが分かりました。

メンバーの意見がスピーディに反映され、会社として実行していく事象を目の当たりにした時、真剣に経営について考えることが重要であることを再認識しました。

多くの社員が参加し、会社の問題点について共通認識を持って前に進んでいけば、必ず改善されていくと思います。



イノベーション会議  
出席メンバーの声(3)

山沢 晴康  
大阪本店 建築部建築課 主任

### 提言が経営者に届いていることを実感

当初、このような取り組みは、メンバーの本音が出ない、経営陣の協力が得られず、会社の改革に至らないなど、はたしてこのプロジェクトは成果を生みだせるのだろうか?と

いった疑念もありました。

しかし会議に出席した今、普段ならば言いにくい意見や、思い切った提案などが発言できる雰囲気で作られており、また社長も毎回出席され、発言に対する回答がその場でなされるなど、メンバーからの提言が経営者に届いている事が実感でき、当初の不安を拭き去ることができました。

会議テーマは難しく、事前準備も大変ですが“会社が変わる”ことを体感でき、会議に出席できることをうれしく感じています。

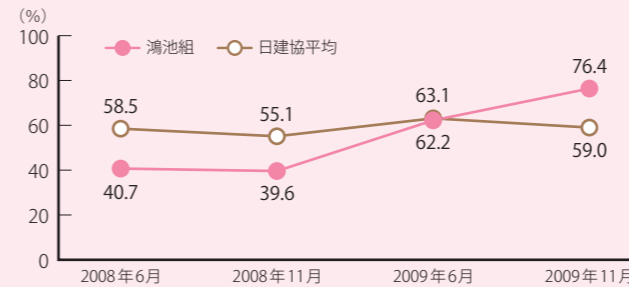
## 「仕事と生活の調和」に向けた取り組みの推進

鴻池組では「働き方をChange!」をスローガンに、「仕事と生活の調和」に向けた活動に取り組んでいます。

一斉土曜閉所の推進やNO残業デーの実践にあたっては、個人・グループ・工事事務所・部課が自主的に時間をコントロールし、メリハリ(仕事の選択と集中)をもって業務遂行することで効率の向上に努め、スケジュール管理の徹底により総労働時間の抑制につなげています。

店内・工事事務所を問わず、個人や職場ごとの休暇・休日の設定について余裕を持って業務工程に組み込めるよう、定期的に行われる週間・月間の工程打合せなどでは、管理職が中心となり職場環境の改善を進めています。

### 「統一土曜閉所運動」閉所率推移



※「統一土曜閉所運動」とは、毎年6月と11月の第2土曜日に現場事務所を一斉に閉所し、「休むことの大切さを考えよう」という運動で、建設業の38の労働組合が加盟する日建協が進めているものです。  
※グラフの閉所率は読み替え(第2土曜以外の土曜閉所)を含む数値です。

### 「仕事と生活の調和」アクションプラン

#### 仕事(会社)と生活(個人)の調和の推進

**働き方をChange!**  
しっかり仕事して、きっちり休む  
～時間は自分でコントロール～

やりがいのある仕事と充実した生活のバランスをとりながら、持てる能力を最大限に発揮する

会社	個人
会社が個人へ 一人ひとりの意識改革・働きがいの 向上への支援	個人が会社へ 能力の向上・新たな価値創造による 会社への貢献
会社が目指すもの 誰もが働きたいと思え、胸を張って 次世代に引き継げる会社	個人が目指すもの 生きがい・働きがいにあふれた 企業人・家庭人としての自立

#### できることから始めよう!

- 閉所日を組み入れた工程の立案と確実な実行  
一斉土曜閉所の推進【1回/月】
- 時間内に効率的に働くワークスタイルの確立  
NO残業デーの実施【2日以上/月】
- 休暇取得の推進  
有給休暇取得推進日の活用  
現場特別休暇(社休)の取得【16日以内/年】



人事管理者の声

田村 俊彦  
本社 管理本部 人事部長

現在、鴻池組では「仕事と生活の調和」に関するアクションプランを定め、仕事の「質」を高めることに全社をあげて取り組んでいます。残業を減らすには、まず意識改革が重要です。残業前提の働き方に慣れていないと効率的に働けないため、「できれば」ではなく「絶対に」定時で退社するという決意が大切です。

また仕事の優先順位は「緊急度」でなく「重要度」で決定するという方向性も大切になってきます。

- 遅れても被害が大きくないものは、思い切って後回しに。
- 一日のうちでデスクワークに集中する時間帯を自分で設定し、極力約束や外出の予定を入れれない。といった工夫が必要になるでしょう。具体的な仕事の進め方としては、
- 不要な図表は割愛し、箇条書きでまとめる。
- 会議や打ち合わせ資料はA4サイズ1枚にまとめる。といった、自分だけでなく他の人の業務時間をも短縮する協力や、
- 重要な案件はこまめに上司や顧客に報告し、早めに仕上げる。
- というような、コミュニケーションを密にすることで手戻りを無くすといった取り組みが不可欠だと考えます。

# 信頼に応える体制づくり

CSR推進体制の中核となるCSR委員会を、社長を中心とする経営陣で構成することにより、経営とCSRを一体のものとして捉える体制づくりを行っています。

## コーポレートガバナンス※

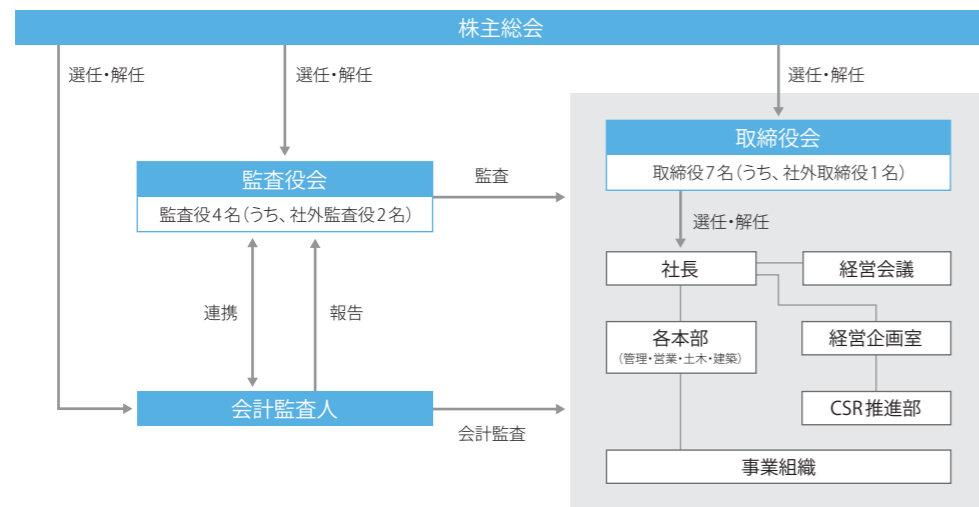
取締役会は7名で構成され、うち1名が社外取締役です。また機動的な人事を行うため取締役の任期を1年としています。

社長が議長を務める経営会議は、会社経営に関する重要事項の審議を行うとともに、各本部長およびその他の業務執行責任者が会社の業務執行に関して意見を述べる場として毎月開催され、こうした経営層の意思疎通を欠かさぬことで、バランス

の取れた経営判断を行う体制としています。

監査役会は4名で構成され、うち2名が社外監査役です。年4回および必要に応じ随時開催される監査役会では、監査方針の決定、会計監査人からの報告聴取、必要に応じて取締役等からの報告聴取を行うとともに、監査結果などについて監査役相互に意見・情報交換を行っています。

### ■コーポレートガバナンス体制



※コーポレートガバナンス一般に「企業統治」と訳されます。経営者の暴走を監視し、意思決定の透明性を高めるなど、経営を最適に制御することをいいます。

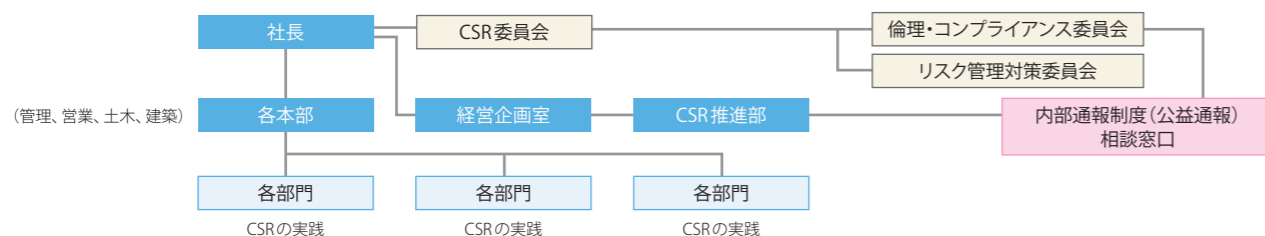
## CSR推進体制

鴻池組のCSR推進体制は、社長を委員長、関連役員をメンバーとする「CSR委員会」を中心に構築しています。同委員会は、CSRの取り組みに関する施策等の意思決定機関として、CSR推進活動の定着と継続を図っています。さらに「CSR委員会」の下部組織として「倫理・コンプライアンス委員会」「リスク管理対策委員会」を設置し、CSR推進活動を総合的に実践する体制を整

えています。

またCSR推進専任部署として経営企画室に「CSR推進部」を設置し、CSR推進計画の策定、CSR推進体制の継続的改善、CSRに関するモニタリング、CSR関連委員会の運営、CSRに関する社内啓発活動など、専属者による部門横断の取り組みを企画、実行しています。

### ■CSR推進体制図



# 企業の持続性を高めるために

鴻池組は事業活動に伴って発生するさまざまなリスクを早期に把握し、その影響を最小限に抑えるための体制整備に努めています。

## リスクの低減に向けた取り組み

### 潜在するリスクのピックアップ

事業活動に伴って発生するさまざまなリスクについては、できればそのリスクが顕在化する前に抽出し、その要因を除去することが理想的です。

鴻池組では、公益通報者保護法に準拠した内部通報制度やリスク・モニタリング制度を整備し、潜在的なリスクの早期把握とその要因の除去に取り組んでいます。

### ■潜在するリスクのピックアップ

制度名	報告されるリスクの種類	報告媒体・手段	報告経路(概略)
内部通報(公益通報)	コンプライアンス・リスク(不正・不法行為)	窓口への通報(電話、メールなど)	外部 → 本支店 → 経営企画室 → 倫理・コンプライアンス委員会 → 社長 → CSR委員会 通報により制度の不備などが明らかになった場合は委員会にて対策を検討
リスク・モニタリング	リスク全般	経営企画室が各本支店に対してヒアリングを実施	本支店 → 経営企画室 → リスク管理対策委員会 → CSR委員会 コンプライアンス・リスクは倫理・コンプライアンス委員会へ処理を付託 倫理・コンプライアンス委員会

### 顕在化したリスクの情報集約と対応

一方、顕在化したリスクに対しては迅速な判断と対応が求められます。そのため顕在化したリスクの種類に応じて、CSR委員会もしくは社長を中心とする経営層へ情報を迅速に届け、瞬時に的確な対応をとれるように体制を整備しています。

また顕在化したリスクへの対応やその後の経過については、CSR委員会他の会議において定期的に報告され、事態が収束に至るまで、会社として目を離さない仕組みになっています。

### ■顕在化したリスクの情報集約

制度名	報告されるリスクの種類	報告媒体・手段	報告経路(概略)
重要懸案事項報告	顕在化したリスクのうち、製品・サービスに関するもの、コンプライアンスに関するものなど早急な対応を要するもの	「重要懸案事項報告書」	本支店 → 経営企画室 → CSR委員会
災害発生報告	労働災害、第三者災害、環境災害、自然災害、火災など	「災害速報」ならびに「災害事故発生報告」	本支店 → 管理本部安全環境業務部 → 各本部長 → 社長
その他のリスクに関する報告	係争案件に関する情報、取引先の倒産情報など	所定様式による報告もしくは社内メールなど	本支店 → 管理本部総務部 → 各本部長 → 社長

## 危機管理体制の強化

鴻池組では大規模な災害発生を想定した「危機管理対策要綱」を定めるなど、事業継続計画の整備と危機管理体制の強化

に努めています。2009年度においては新たに新型インフルエンザ流行への対処方針を策定し、全従業員に周知を図りました。

# 情報マネジメント

より効率的・効果的な情報化推進とITの積極的活用——。  
全社的観点から情報システムのあり方を見直し、内部統制や情報セキュリティのさらなる強化を目指します。

## システム検討委員会

鴻池組ではお客様の情報や個人情報など、企業内部の情報を適切に管理することが、企業活動を支える重要な要素であると考えています。

その上でさまざまに変化する経営環境に対応するため、より効率的・効果的な情報化推進を目的とし、中期的・全社的展望に基づいたシステム計画を策定する「システム検討委員会」を2009年度に設置し、活動を開始しました。

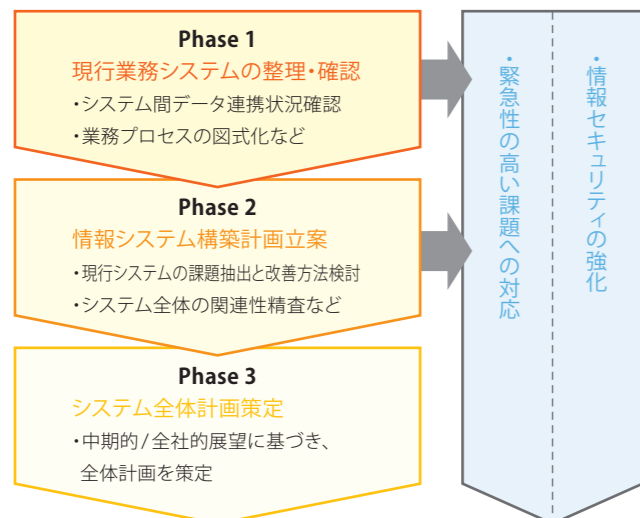
### ■システム検討委員会活動方針

- (1) 業務ならびにデータの可視化推進
- (2) 大胆な合理化の推進
- (3) 内部統制・情報セキュリティのさらなる強化
- (4) 情報システム構築・運用体制の再整備

現在、システム検討委員会では、活動計画のPhase 1「現行業務システムの整理・確認」を進める中で、全社的観点から抽出された問題点や、新たに提起された課題について精査し、一部システムの機能改良や新規構築による対応を行っています。

情報セキュリティ対策については、現在の施策を一部刷新し、また情報資産を集中的に管理する仕組みを整備したことにより、内部統制や情報セキュリティの単なる強化ではなく、情報システムの面からコンプライアンス徹底をより強力に推し進める体制が整いました。

### ■活動計画

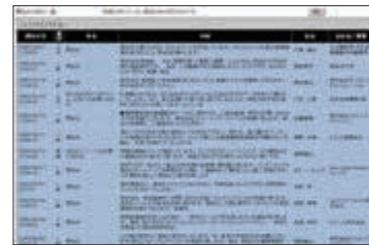


## ホームページへのご意見・お問い合わせ

鴻池組のホームページは、企業活動に関わるさまざまな情報について適時・適切に公開する場であると同時に、さまざまな立場の方からのご意見やお問い合わせをいただくための重要な窓口でもあります。

ホームページの窓口いただいたお問い合わせやご意見は、貴重なモニタリング資料として分析と課題抽出を行い、より良いコミュニケーションの構築に役立てています。

2009年度にいただいたお問い合わせやご意見は237件に上り、関連する社内の各部門と情報共有を行い、対応に努めました。



お問い合わせ・ご意見のデータベース画面

## 動画版社長メッセージ配信

社長から従業員へのアナウンスメントはどの企業においても行われるものです。

鴻池組ではメールなどによる単なる文章発信ではなく、社長の込めた「思い」が直接従業員へ届くようITを積極活用し、社長メッセージをイントラネット上に動画で配信しています。



動画版社長メッセージ

# 安全マネジメント

建設現場における危険・有害要因を除去し、より安全で快適な職場づくりのためにPDCAサイクルをまわし、協力会社とともに災害防止に取り組んでいます。

## 安全管理体制

### Plan (計画)

労働災害評価システムにより、過去5年に当社で発生した労働災害の分析を行い、危険・有害要因の特定を行います。これを踏まえ、特定された要因を低減するための施策を策定しています。



労働災害評価システム画面

### Act (改善)

災害が発生した場合、災害データ入力を行い、危険・有害要因のデータを蓄積します。この登録された情報に基づき、次年度に当社が取り組む必要がある、危険・有害要因を特定します。



災害データ入力画面

### Do (実施)

危険・有害要因の低減のための施策について、社長を議長とする中央安全衛生・環境会議において審議し、安全衛生・環境管理方針ならびに重点実施事項を決定します。決定された施策を実行するため、本支店では管理計画書を作成し、職員および協力会社に対して教育を実施します。

### Check (評価)

管理方針および目標の達成に向けた本支店の実施状況を確認するために、年4回の特別パトロールと総括安全衛生担当役員による本支店監査を実施しています。



社長パトロール



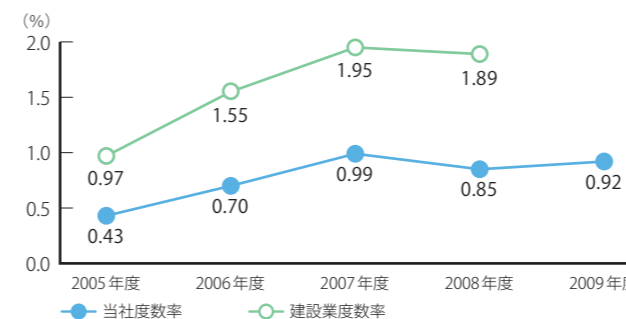
総括安全衛生担当役員による監査

## 安全成績

### 度数率

2009年度の死亡災害は0件でしたが、発生頻度を表す度数率は昨年度を上回る結果となりました。災害多発に対して、文書により防止対策の徹底を指示しました。

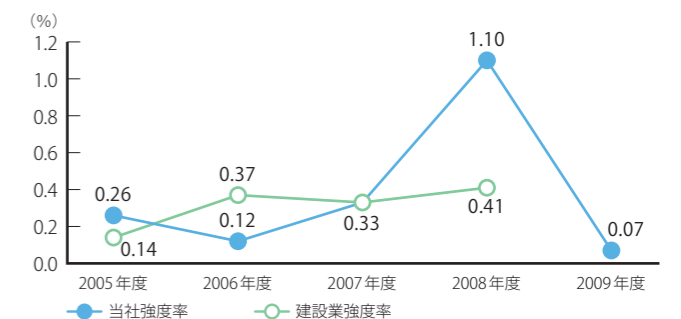
### ■度数率(災害発生率)の推移



### 強度率

災害の大きさを表す強度率は、2008年度に交通災害による死亡(2件)が発生したため、大きな値を示していますが、この年以外は軽微な災害が主体となっています。

### ■強度率の推移

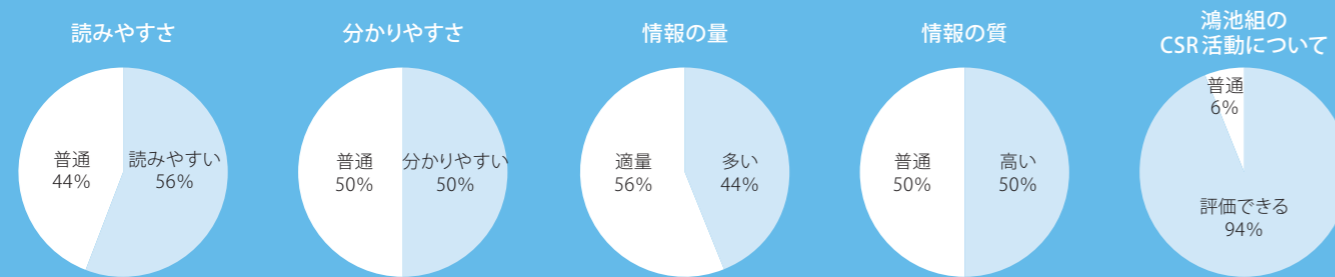


## アンケート結果

# 皆様の声にお応えします

「鴻池組 CSR 報告書 2009 アンケート」により多くの貴重なご意見が寄せられました。ご協力をいただいた皆様に厚くお礼申し上げます。アンケートの集計結果、ならびにお寄せいただいたご意見に基づき「CSR 報告書 2010」や会社としての CSR 活動に改善を加えた点などをご紹介します。

### 報告書全体を通していかがでしたか



### 鴻池組の CSR 活動、CSR 報告書についてお寄せいただいたご意見

#### 主なご意見・ご要望とその対応

ご意見	安全衛生マネジメントの一環として災害事例をデータベース化し、協力会社でも閲覧、利用できるようにならないでしょうか。
鴻池組から	こうした声にお応えすべく、すでに一部の本支店においてはメール配信の形で、災害事例のデータ開示を行っています。会社として災害事例のデータベース化は完了しており、全社的に協力会社の皆様と情報を共有することも検討していますが、蓄積しているデータの中には個人情報なども含まれていますので、開示情報の範囲や閲覧・利用方法などを協力会社の皆様と協議していきたいと考えます。
ご意見	鴻池組の CSR 活動がよく分かりました。イメージの悪い工事現場がこういう活動を通して地域住民の方々にも理解されるよう、鴻池組が建設業の先駆者となって取り組まれることを期待しています。
鴻池組から	建設現場は、地域社会をはじめ発注者、協力会社の方々などさまざまな関係者と最も多くの接点を持つ場所であると同時に、各地域に出向き、その場所に溶け込んで仕事を行うという、建設業の特徴が最も端的に表れている場所でもあります。そういった意味で、鴻池組でも建設現場を会社にとっての「CSR 活動実践の窓口」と位置づけ、地域住民の方との融和や次世代の育成、環境負荷低減への取り組みや環境貢献技術の実証といった数多くの CSR 活動を現場で実践しています。 地道ではありますが、こうした活動が建設業のイメージアップにつながり、またそこで働く協力会社の方々や従業員の働きがいと誇りを高めていくものと考えています。
ご意見	協力会社の紹介や、現場に対しての意見を掲載するコーナーを作ってみてはいかがでしょうか。
鴻池組から	現在、鴻池組では協力会社の皆様との共栄に向けた新たな取り組みを進めています (P21~22 の記事をご参照ください) ので、自ずと関連記事が増えてくるものと思います。 また CSR に向けた取り組みも、今後は協力会社の皆様と一体で考えていく必要がありますので、ご意見をお聞きする機会を増やしていく方針であり、その内容についても適宜「CSR 報告書」に掲載していく予定です。

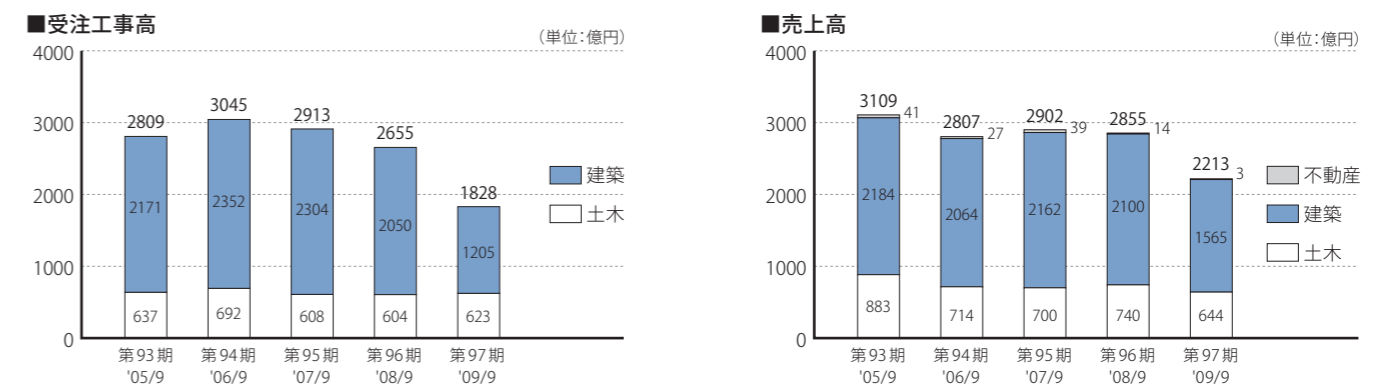
## 会社概要

### 事業概要

- 創 業：明治4(1871)年  
 設 立：大正7(1918)年6月  
 資 本 金：52億5千万円  
 事 業 項 目：1.建設工事の企画、測量、設計、監理、請負及びコンサルティングに関する事業  
 2.不動産の売買貸借及びその仲介並びに所有管理に関する事業  
 3.骨材及び砂利の採取販売に関する事業  
 4.建設用資材の製造及び販売に関する事業  
 5.土地及びその定着物の信託に係る信託受益権の販売、代理、媒介、並びに土地及びその定着物の借地権及び地上権の信託に係る信託受益権の販売、媒介  
 6.不動産の鑑定評価に関する事業  
 7.前各号に関連する一切の事業

- 許 可：特 定 建 設 業 許 可 国土交通大臣許可(特-19)第2399号  
 建設コンサルタント登録 建21 第101号  
 測 量 業 者 登 録 第(9)-7302号  
 宅 地 建 物 取 引 業 国土交通大臣許可(11)第1268号  
 第二種金融商品取引業者登録 近畿財務局長(金商)第145号  
 不 動 産 鑑 定 業 者 登 録 東京都知事(1)第2209号

### 受注・売上実績



### 本社ならびに本支店所在地

事業所名	郵便番号	所在地	電話番号
本社・大阪本店	530-8517	大阪府大阪市北区梅田3-4-5	06-6343-3500
東京本店	136-8880	東京都江東区南砂2-7-5	03-5617-7500
北海道支店	060-0061	北海道札幌市中央区南一条西14-1	011-271-4141
東北支店	980-0021	宮城県仙台市青葉区中央2-9-27	022-266-1275
横浜支店	231-0023	神奈川県横浜市中区山下町74-1	045-201-2831
名古屋支店	460-0003	愛知県名古屋市中区錦2-19-1	052-202-4500
京都支店	604-8151	京都府京都市中京区蛸薬師通烏丸西入ル橋弁慶町227	075-211-5116
神戸支店	650-0024	兵庫県神戸市中央区海岸通4	078-331-6857
広島支店	730-8533	広島県広島市中区八丁堀2-31	082-228-1161
山陰支店	690-0887	島根県松江市殿町516	0852-22-1551
九州支店	810-0041	福岡県福岡市中央区大名1-14-45	092-721-5025
南九州支店	892-0825	鹿児島県鹿児島市大黒町2-11	099-225-0321
海外事業部	136-8880	東京都江東区南砂2-7-5	03-5617-7860
技術研究所	305-0003	茨城県つくば市桜1-20-1	029-857-2000